



西前小だより

横浜市立西前小学校

Web: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/sch/es/nishimae/>



対話を通して、多様性を尊重するとは

校長 鳥飼信幸

OSF から日が過ぎましたが、まずは保護者の皆様、地域の皆様、OSF へのご理解ご協力ありがとうございました。当日は天気にも恵まれ暑い日となりました。子どもたちは日頃の練習の成果を思う存分発揮できました。そして、一人ひとりにドラマが生まれました。それもこれも保護者の皆様の声援だけではなく子どもへの熱い応援の眼差しと大きな拍手、ルールの遵守、また見守っていただいた地域の皆様方のおかげだと感謝しております。

OSF に参加できなかった人、運動が苦手でなんとか OSF に参加できた人、勝敗はなかったけれど自分の力を発揮できなかった人、友達と比べてしまっがっかりした人、子どもたち一人ひとり感じたことに違いがあります。すべての人が成功体験、達成感を味わったのではないとも思っています。今後も、一人ひとりの子どもたちに寄り添い指導支援をしていきます。

子どもの成長にとって大切なことの一つに多くの皆様の前の発表があります。今まで積み重ねてきたものを人に見てもらうことによって、満足感を得る体験をします。それらは、自己肯定感、自己有用感等の生きる上で大きな力となります。OSF を通して、子どもたち一人ひとりが自分の成長を実感したと思います。今後も発表の機会を大切にしていきたいです。

我が子だけにとどまらず、本校の子どもたちのため、当日だけではなく、事前からの準備を、PTA の役員の皆様、広報委員会の皆様、受付を快く引き受けていただいた係会の皆様、見えないところでも裏方で支えてくださった方々、そして、当日、片付けを引き受けていただいた係会の皆様、その場で、手伝っていただいた保護者の皆様、子どもたちのためにありがとうございました。私たち職員が子どもたちのみに集中できたのも皆様のおかげです。先生方は OSF 中、その後、子どもたちとともに過ごすことができ、いっしょに感動体験ができました。感動の余韻に浸りながらの下校となりました。

教育活動には、様々な配慮が必要です。警備や受付等、職員が担当することになります。PTA 役員の皆様から「子どもたちに集中してください。その他のことは私たちがやります。」と言っていただきました。普段から PTA の役員の方々とは、学校の立場と保護者の立場で対話を重ねています。PTA の役員の皆様、私たち学校に、子どもたちにお気遣いいただいて

いることに感謝いたします。だからこそ、子どもたちが活躍でき、保護者の皆様もいっしょに感動できた OSF になりました。
教育活動全てにイえることです。

何度も掲載となりますが、「よりよい教育には、よりよい大人の姿が大きな力となります。」子どもたちにとって「素敵だな」と思われる大人の姿に違いありません。わが子のため、本校の子どもたちのための姿です。

今回のOSFを通して、我が子から「素敵だなと思われる大人」であれば、達成できたと思います。一方、お手伝いいただいたみなさんへの感謝の気持ちも、もしかしたらなかったとしたら…。もちろん、お手伝いしたくてもできない方がおられることはわかっております。支えてもらったことへの感謝する気持ちをもつことはできます。その気持ちは子どもたちへ伝わり、お互いに支え合う学校生活を送るようになります。社会の縮図が学校にあります。ひとつの行事を通して、職員と保護者の姿でも、子どもが育つことができました。「大人の背中を見て育つ」という言葉もあります。だから、子どもたちのためにも協力していただくことが大切です。

PTA役員のみなさんと、学校と保護者の立場で対話を重ねていることは、本校の教育目標のひとつ「対話」にもつながります。多様性を受け入れ、対話を通して対立・ジレンマを解決する力を育みます。OSFの目標のひとつにもなっていました。

- ① 他者の立場や考え方の違いを理解し尊重する(リスペクト)
- ② 対話を通して他者との共通の目的を見つけ出す(パブリックリレーションズ)
- ③ 共通の目的の実現のために他者と協働する(コラボレーション)

対話を通して、多様性を尊重するとは、お互いの違いを認め合い、自分と相手の両方を大切にすることです。そうはいってもなかなか難しいです。しかし、子どもの時から OSF のような行事や普段の授業など、その環境に身を置くことで、知らず知らずのうちに理解と納得ができるようになります。

ちなみに、ラグビーでは、身体が大きい人や小さい人も、足が速い人や力がある人も、様々な身体特性をもった選手それぞれが活躍できるポジションがあります。また、日本代表では、出身国や人種、言葉や文化が異なる選手が“One Team”となり活躍しています。今回、代表に選出された一人も国籍も違う、お母さんが子どもの頃に亡くなったといったバックグラウンドがある選手もいます。多様性を尊重したスポーツのひとつです。

一人の人間が感じる「正しさ」は、実はとても視野が狭いものです。だから、他の人にとっての「正しさ」を知り、対話することで、視野を広げてゆく必要があります。意見が異なる他者と出会った時は、成長のチャンスだともいえるでしょう。そして対話することで、双方が納得できる、よりよい対応策をともに作り上げていく。(参考:朝日新聞 哲学研究者 山口裕之)

学校で起きた出来事を、子どもたちは保護者に話すときに、どのように話すでしょうか。子どもなので、自分の都合の悪いことやお互いにやりやっただのに相手のせいにした話をするのもしばしば…。その時こそ、「他者の立場や考え方の違いを理解し尊重する(リスペクト)」、子どもと子ども、保護者と保護者、子どもと先生、先生と保護者の立場や考え方の違いを理解し尊重し合うことが大切です。意見が異なる他者と出会った時は、成長のチャンス。そして対話することで、双方が納得できる、子どもたちにとって、よりよい対応策をともにつくり上げていくことができます。その逆であれば、対応策ではなく、子どもたちを追い込むことになりかねません。

以前、担任の先生、保護者に本当のことを話してくれない子がいました。学校での友達とのかかわりの様子と、保護者が本人から聞いていることが違っていました。私たちはとても心配していました。しかし、本人がどちらにも正直に話をしてくれないので、保護者と学校とがうまく意思疎通ができなくなってしまいました。その心配は増すばかりでした。

ある日、本当の気持ちを聞く機会がありました。心を開いて話してくれるよう、私からいろいろなことを聞くのではなく、本人が話し出すまで、ずっと傾聴に心がけました。すると、突然泣き出したのです。私は黙って頷いていました。「本当のことを話せなかったことがつらかった」と言ったのです。自分の「本心」(心に秘めた本当の気持ち)を語るができないことにもつらさを感じていたようでした。そこからは、解決に導くことは早かったです。子どもの立場や考え方の違いを大人が理解し尊重する対話、学校と保護者も立場や考え方の違いを理解し尊重する対話をした例です。

その子は心を開き、自分の「本心」(心に秘めた本当の気持ち)を話し、自分を見つめ直し反省することによって、今では、個性を発揮し伸び伸びと学校生活を楽しんでいます。

今後も「子どもたちが育つ学校」にするために、子どもたちを中心とした周りの大人たちが尊敬し合う姿を示すことが大切です。OSFでは、その姿を示すことができたと思っております。子どもたちに何か起きた時こそ、「他者の立場や考え方の違いを理解し尊重する(リスペクト)」が大切です。

最後に、近隣の皆様、OSFの練習・当日、大きな音楽、大きな声に関してご迷惑をおかけしました。また、当日も参観者などで学校周辺でもご迷惑をおかけしたと思います。ご協力ご理解ありがとうございます。来年度のOSF、また今後も、子どもの成長にとって大切なことの一つ、多くの皆様の前の発表をいたします。その時も、ご理解ご協力をお願いします。

学校ホームページへのアクセスはこちらから →



本校でも、SNS などによる根拠ない噂や誹謗中傷の発信、そのまま受け取り、さらに発信するような事例が、子どもたち同士、保護者同士にも起きています。たいへん残念なことです。

政府広報オンラインから

SNS は、誰もが気軽に自分の意見や思いを投稿できますが、その投稿内容によっては人を傷つけてしまいます。個人の悪口を書き込んだり、広めたり、メッセージを送りつけたりするなど、インターネット上の誹謗中傷が深刻な社会問題となっています。たとえ顔は見えなくても、SNS の向こう側にも同じ人間がいることを想像し、ルールやモラルを意識した、正しい利用を心がけましょう。また、安易に誹謗中傷するとどうなるのか、万が一、誹謗中傷を受けたらどうすればいいのかを知っておきましょう。攻撃しているのはごく一部の人に過ぎませんが、それをわかっている人も人は傷つきます。

参考：総務省のホームページ

「上手にネットと付き合おう!～安心・安全なインターネット利用ガイド～」